

※議長(松原たかし)、副議長(陣矢幸司)、監査委員(大島もえ)は、慣例により一般質問を控えています。



「環境・都市基盤」施策について市の見解を伺う



令和あさひ
さかえ 章演

Q 三郷駅周辺まちづくり事業の今後の展望について市の見解を伺う。

A 本事業は、工事費高騰の影響を受け大幅な事業費の増加が見込まれ、現在工事費縮減など事業計画の見直しや、駅の改修内容を名鉄と協議を進めている。そのため、事業完了は当初の令和9年度から12年度を見込んでいる。魅力と活気あふれるまちづくりには、三郷駅周辺の再構築は必要だ。今後も事業の着実な進捗に努める。

Q 当市の上下水道料金の値上げについて市の見解を伺う。

A 水道事業では、本市は県営水道から100%水道水を購入しており、県営水道の料金値上げの影響は大きい。下水道事業では、経費回収率(使用料対必要経費の割合)が83%で不足分を一般会計からの繰入金で補填している。料金値上げは避けられず、新年度の上下水道経営審議会で審議し、令和8年度からの改定を予定している。



より良い暮らしにするための財政について



市民クラブ
早川 八郎

Q 本市の発展のためには、まずは財政の立ち位置や状況把握が大切。その立ち位置は。

A 本市の財政的な特徴は、市税の大半を個人市民税や固定資産税が占めており、安定的に確保できている。立ち位置としては、自主財源比率が全国ランキング792団体中100位で、歳入面では財源が確保しやすい。一方、義務的経費比率が536位、人件費率は763位と歳出面での財政硬直化が進んでいる。

Q 本市の眠っている土地や有効利用されていない施設などを手放し、身軽にする必要がある。本市の財産の整理整頓について伺う。

A 社会ニーズの変化などにより市有地や施設では、その役割を終えたものもある。今年1月に「公共建築物の再編・整理に関する基本的な方針」を策定。引き続き市民ニーズに合った対応をしていく。また、利用予定のない市有地は積極的に売却をし、財源確保に努める。



学校体育館エアコンの早期設置を!



公明党
尾張旭市議団
芦原 美佳子

Q 国は学校体育館の空調整備の加速化を進め、早期実施に向けた支援を行っている。気候変動や避難所としての機能強化を踏まえ、小学校も早期整備を。

A 教育委員会の意向を踏まえ、部活動などで活用頻度の高い中学校から設置することとしたが、小学校については、もうしばらく時間が必要。できる限り早期に設置できるよう、効果的な整備手法のほか、財政支援策の活用検討にも着手している。

Q 努力義務として示されている認知症施策推進計画を本市でも策定し、実情に応じた認知症対策を推進すべきでは。

A これまでも第9期尾張旭市高齢者保健福祉計画の重点取組として認知症施策の推進を掲げ、認知症予防や初期段階で医療につなげるサポートのほか、地域で支える環境づくりに取り組んできた。今後は認知症施策推進計画の策定に向けた検討を進めたい。